

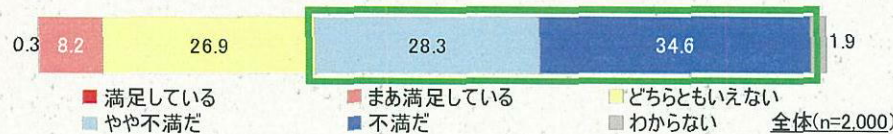
2-1. 社会保障制度総論について

関心度



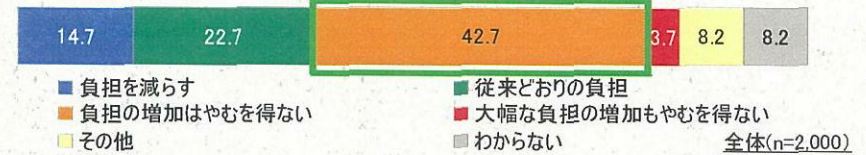
- 現在の社会保障制度に「関心がある」人は約半数の**49%**。「まあ関心がある」を含めると、全体の**89%**の人が**関心をもっている**。
- 性別では、「関心がある」人は女性よりも**男性の方が4ポイントほど高くなっている**が、「関心がある」・「まあ関心がある」の合計では、男性**87%**、女性**91%**と女性の方が高くなっている。
- 年代別では、**年代が高くなるほど関心も高くなる傾向**。「関心がある」・「まあ関心がある」の合計でみると、20代が**78%**に対して、70代は**97%**と20ポイント近くの開きが見られ、世代間での関心度の差が顕著。

満足度



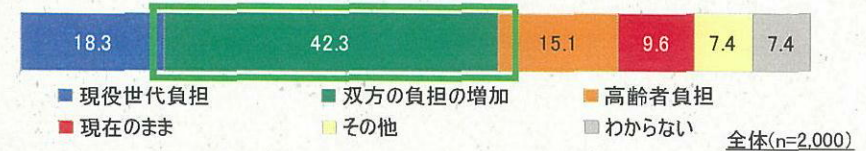
- 現在の社会保障制度に対して「満足」・「まあ満足」と答えた人は**8%**にとどまる。
- 「不満だ」と回答した人は**35%**で「やや不満だ」を含めると**全体の63%の人が不満を抱いている**。
- 性別では、大きな差異はみられない。
- **60代以上で「満足」・「まあ満足」と答えた人は10%~20%と他世代よりも高め**。一方、30代~50代は7割近くの人が不満を抱いているという結果。

給付と負担のバランス



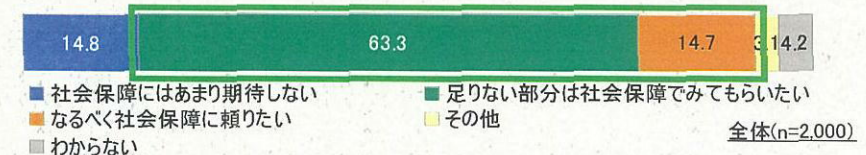
- 「給付水準を保つために、ある程度の負担増加はやむを得ない」と考える人が最も多く**43%**。大別すると、負担増について**反対が37%**、**容認が46%**となっている。

高齢者と現役世代の負担のあり方



- 「**高齢者と現役世代双方の負担の増加はやむを得ない**」と考える人が最も多く**42%**。

社会保障制度のあり方



- 「基本的には自分でなんとかするが、足りない部分は**社会保障でみてもらいたい**」と考える人が最も多く**63%**。**社会保障制度に頼りたいと考える人は、78%**で8割近くにのぼっている。